



KONICA MINOLTA

株主の皆様と描く、コニカミノルタの軌跡

# MILESTONE

マイルストーン：一步一步の取り組みを大きな道しるべに

2013年 秋号

<特集>

“AeroDR”お客様事例のご紹介：東京女子医科大学東医療センター様

## コニカミノルタ株式会社 株主通信

証券コード：4902

1 プロフィール / 3 株主の皆様へ  
5 経営成績の概要 / 6 通期業績予想 / 7 特集  
11 事業別概況 / 13 会社概要・株式の状況  
14 IRインフォメーション / 裏表紙 お知らせ

Giving Shape to Ideas

# プロフィール

コニカミノルタグループは、経営理念「新しい価値の創造」の下、日々の企業活動を通じてお客様や社会にとって価値のある、当社ならではの「新しい価値」を創造し、提供することによって、より良い社会の実現を目指すことを経営の基本方針としています。

## 事業分野

当社グループはカメラやフィルム事業で培ってきた材料、光学、微細加工、画像の4分野のコア技術をもとに、情報機器事業を核にした3つの事業を展開しています。

### ヘルスケア事業

最先端の画像処理技術を活かした画像診断システムの製造・販売や保守およびサービス事業を展開しています。

9%※

1%※

### その他事業

産業用インクジェット事業やプラネタリウム事業で構成されています。

13%※

### 産業用材料・機器事業

液晶ディスプレイに使用されるTACフィルムや一眼レフ交換レンズ、計測機器などが主力製品であり、さらに成長事業である有機EL照明分野や機能性フィルム分野などで構成されています。

77%※

### 情報機器事業

A3カラー複合機(MFP)などを扱うオフィス分野と、成長領域である、商業印刷や企業内印刷で展開するプロダクションプリント分野で構成されています。

※ 2013年度通期業績予想(10月31日発表)ベースにて各セグメントの売上構成比を掲載しています。

## ジャンルトップ戦略

「成長が見込まれる領域」、「勝算のある領域」に経営資源を集中し特定市場でトップポジションを目指す戦略を推進しています。

### オフィス分野

### 海外でトップレベルのシェア

(A3カラー複合機)

A3カラー複合機(MFP)の販売は、海外においてトップレベルのシェアを誇っています。機器だけでなく、オフィス環境の“最適化”を実現するビジネスソリューションも提供しています。



「bizhub(ビズハブ) C554 e3」シリーズ

### プロダクションプリント分野

### グローバルでトップシェア

(カラーデジタル印刷システム)

成長領域であるプロダクションプリント分野におけるカラー機の販売台数は、世界シェアでNo.1を獲得しています。

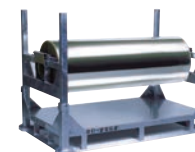


「bizhub PRESS C8000」  
製品の内部イメージ図

### 視野角拡大用 VA-TAC フィルム

### 大型液晶テレビ用途で トップシェア

大型液晶テレビの液晶画面に視野角拡大機能を持たせるVA-TACフィルムは、当社の強みである40μmの薄膜タイプの製品が評価され、トップシェアを獲得しています。



液晶偏光板用TACフィルム

### カセット型デジタルX線撮影装置 「AeroDR (エアロディーアール)」

### カセット型DRで 国内トップシェア

高画質・低被曝などの優れた商品力とワイヤレスによる卓越した携帯性や操作性がお客様より高く評価され、カセット型DR(デジタルラジオグラフィー)では国内でトップシェアを獲得しています。



「AeroDR」

※ 上記のマーケットシェアは当社推計



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの2014年3月期第2四半期連結累計期間(2013年4月～9月、以下「当期間」)の概況をご報告いたします。当期間のグループ業績は、中核事業の情報機器事業の売上拡大、収益性向上が牽引し、大幅な増収、営業利益も増益の決算となりました。

当期間における当社グループの連結売上高は、4,504億円(前年同期比17.4%増)となりました。円高修正に伴う為替換算による増収効果に加え、カラーMFPの製品力とM&A効果を活かした情報機器事業での大幅な増収が全体を牽引しました。また、製品とサービスを組合せたハイブリッドビジネスも着実に増え、事業の拡大とともに、業容の転換も順調に進んでいます。

営業利益は、産業用材料・機器事業が減益となりましたが、情報機器事業が売上拡大とコストダウン計画の順調な進捗により大幅な増益となったことから、241億円(同19.2%増)となりました。経常利益は214億円(同17.8%増)となりました。一方、HDD用ガラス基板の事業撤退を決定したことに伴う事業撤退損168億円を計上した結果、税金等調整前四半期純利益は6千万円となりました。四半期純利益は、グループ再編に伴う繰延税金資産の見直しの影響に係る税効果などにより、55億円(同27.0%減)となりました。

このように本業の成績を示す売上高及び営業利益が順調に進捗する中、持続的成長のための構造改革についても着実に手を打ちました。剰余金の第2四半期末配当につきましては期初の計画通り、普通配当として一株当たり7.5円に、経営統合10周年の記念配当2.5円を加え、1株当たり10円をお支払いすることといたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2013年11月

コニカミノルタ株式会社  
代表執行役社長

松崎 正年



# 経営成績の概要

## 2014年3月期第2四半期連結累計期間業績の概要

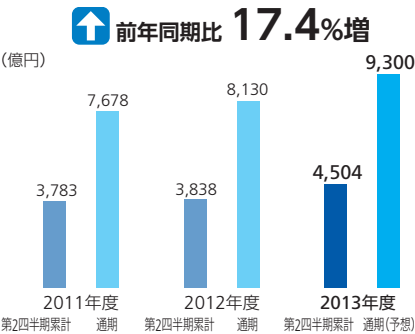
売上高	4,504億円	(前年同期比17.4%増)
営業利益	241億円	(同19.2%増)
経常利益	214億円	(同17.8%増)
当期純利益	55億円	(同27.0%減)

情報機器事業では、オフィス分野はカラー複合機(MFP)が日米欧他の全ての地域で販売台数が前年同期を上回り好調に推移しました。また、ここ数年欧米を中心にM&A等により取得したITサービスプロバイダーとの連携により、MFPとITサービス、コンサルティングサービスを組み合わせた販売モデルが着実に増えています。プロダクションプリント分野でもカラー機の販売が堅調に推移し、販売台数は前年同期を上回りました。加えて、製造部門における固定費の削減、電子部品の集中購買による変動費の削減など、コストダウン計画が順調に進捗しました。

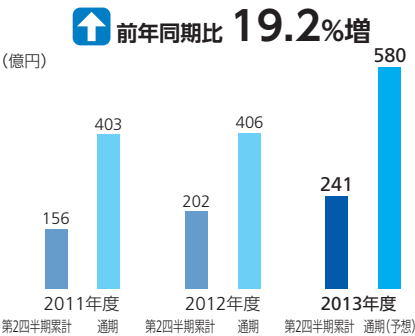
産業用材料・機器事業では、ディスプレイ材料分野はノートPCの市況悪化やTV用使用部材の多様化に伴い、液晶偏光板用TACフィルムの販売数量は前年同期を下回りましたが、想定範囲内で進捗しました。計測機器分野は昨年実施したM&A効果が奏功し、順調に売上を伸ばしました。光学分野では、各種カメラ用レンズやプロジェクター用レンズが、概ね計画に沿った進捗となりました。

ヘルスケア事業では、デジタルX線画像診断システムのカセット型DR(デジタルラジオグラフィ)の販売が好調に推移しました。日本での販売伸長に加え、海外ではパートナー企業との販売提携も奏功して、当期間の販売台数は前年同期を大きく上回りました。

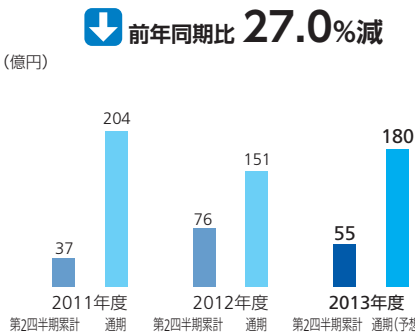
### 売上高



### 営業利益



### 当期純利益



# 通期業績予想

## 2014年3月期通期業績予想の修正

	2013年10月31日発表	前回予想	前年実績	前年同期増減率
売上高	9,300億円	9,000億円	8,130億円	14.4%
営業利益	580億円	550億円	406億円	42.6%
経常利益	540億円	530億円	389億円	38.8%
当期純利益	180億円	260億円	151億円	19.0%

当上期の業績が、情報機器事業においてA3カラー複合機の販売が国内外で好調に推移したことに加え、円高修正に伴う為替換算による効果もあり、当初の見込みを上回る実績となりました。これを踏まえ、売上高、営業利益、及び経常利益につきまして、それぞれ通期予想を上

方修正いたしました。一方、当期純利益につきましては、産業用材料・機器事業を構成するHDD用ガラス基板事業からの撤退に伴い、当期間の特別損失として事業撤退損168億円を計上したため、下方修正いたしました。

### HDD用ガラス基板事業撤退の決定に関するお知らせ(2013年10月31日リリースより抜粋)

HDD用ガラス基板事業においては、ガラス溶融・製造及び研磨など光学製品で培った独自技術を活用して、主としてノートPCなどに搭載される磁気記録駆動装置用の2.5インチガラス基板の製造及び販売を行ってまいりました。

近年、HDD用ガラス基板における技術トレンドとして、基板一枚当たりの記録容量が継続的に増加する傾向にあります。その中で、当社にとって市場からの要求水準に対応して従前の優位性を確保することが厳しい状況となり、その結果、足元の出荷数量が減少するとともに当該事業の収益状況は悪化しております。加えて、タブレット型端末等の台頭によりノートPC市場は縮小傾向にあり、またSSD(記録媒体としてフラッシュメモリを用いる記憶装置)など新しい技術の登場による需要の浸食もあり、今後の需要動向に関して持続的な成長拡大を見通すことは、困難な状況になっております。

このような状況に鑑み、当該事業の業績を早期に改善することは難しいものと判断し、平成25年12月を目途にHDD用ガラス基板事業から撤退することといたしました。

当社は、産業用材料・機器事業においては、需要や価格の変動、技術進化の影響を受けやすいデジタル家電やPC関連への依存度を低減し、安定して収益成長が期待できる産業用やプロフェッショナル向けに事業領域を拡大するなど、当事業全体のポートフォリオの見直し及び事業の選択と集中を鋭意進めてまいります。



## 医療現場の改善・革新が職員の負担を軽減し、 患者様への医療サービスの向上につながっていく

### インタビュー



上野病院長

地域中核病院として活躍されている東京女子医科大学東医療センター様が、この度、当社のAeroDRを導入されました。本特集ではその目的、経緯、そして導入後の現場環境などを取材をもとにご紹介させていただきます。

.....  
大学の理念である“至誠と愛”を  
胸に、2つの機能を果たしています  
.....

上野病院長 当医療センターは、1934年に開設し、来年には創立80周年を迎える歴史のある病院です。

私自身は、2002年に放射線科部長として赴任し、本年4月より病院長を拝命しました。当院は荒川区の下町情緒あふれる住宅街に位置し、開設以来、地域の中核病院という側面と大学附属病院として高度医療を担い、また、人材育成を手掛けるという2つの機能を果たしてきています。

「ですが、赴任した当時は、驚くことも多かったです」。医は仁術と申しますが、現場環境がおざなりにされている部分があり、結果、職員への負担も重くなり、設備も後れていました。

こうした状況の中で、高度医療、地域への充実した医療サービスを提供する上で、職員の負担軽減、医療現場の革新を目指し、総合病院としてのあるべき姿を追求するために、環境整備を決意いたしました。

.....  
AeroDRとの出会いは海外でした  
.....

上野病院長 そのような決意のもと、約10年前に導入したX線撮影のCR(コンピューティドラジオグラフィ)システムが更新の時期を迎えていました。

そんな折、2012年11月のRSNA(北米放射線学会)の放射線医療機器専門見本市会場でAeroDRとの出会いがありました。

世界40カ国・地域から667社が製品を展示している中、外国人関係者の人だかりが出来るほど盛況なブースがあり、興味本位で立ち寄ると、人だかりの中心にAeroDRがありました。従来ではあまり見られない光景に一人の日本人として「喜び」を感じたと同時にAeroDRに非常に良い印象を持ちました。

帰国後、私はすぐさま今回のフラットパネルの検討にAeroDRも加えるようにと田中副技師長に伝えました。



RSNA



田中副技師長

.....  
すでにその時、比較検討で  
盛り上がっていました  
.....

田中副技師長 効率良く、患者様に適切な医療サービスを提供でき、職員の負担も軽減できる。このような観点からこの時すでに新しい製品選定で盛り上がっていました。選定の最大のポイントは、“軽さと堅牢性”です。ワイヤレスフラットパネルはどこへでも運べ、撮影が可能ですが、職員が持っていかなければなりません。軽量と丈夫さが選定の基本です。また、当院には様々な撮影機材が入っており、製品の選定には、それらと同様以上の扱い易さと既存システムをそのまま使用できるという点もポイントとなります。

各社製品を扱った経験のある油原主任の意見も聞き、AeroDRの採用を院長に提案しました。

.....  
導入した実際の現場では  
.....

診療放射線技師 油原主任 当初は、当時使っていた他社製品への信頼も強かったのですが、AeroDRの良い評判を交流のある他の医療機関の担当者から聞くことが多かったので、試してみる価値はあると考えていました。

そんな中、コニカミノルタさんの営業の方から熱心な提案を受け、使ってみて納得しました。実際の導入後、持ち運びだけでなく、撮影した画像をリアルタイムで見られるようになり、大変便利になりました。ワイヤレス化により、手術室や病室などでも比較的容易に撮影でき、撮影した画像も



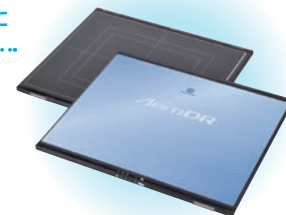
診療放射線技師 油原主任

すぐにその場で確認できるようになりました。また、患者様の被曝低減も優れた特徴としてあげられます。

.....  
現場が汗をかかなくなりました  
.....

上野病院長 海外での出会いがキッカケとなり、現場の声を大切ににした結果、今回のAeroDRの選定となりました。導入後約3ヶ月が経ちますが、リアルタイムで画像が見られるようになったことから、従来何枚ものカセットという撮影用の板を持ち運ばなければならなかった労力から解放され、尚且つパネル自体が軽量設計であるため汗をかかなくなりました。そして、現場が秘かに喜んでいるのが、患者様の患部を的確に捉えているかがすぐに確かめられること。これが、実際に画像を見るまでの不安・緊張を取り除き、万が一の冷や汗もかかなくなりました(笑)。

この度のAeroDRの導入などにより、当院はX線撮影分野でトップレベルのシステムを持つようになり、近況では、他の医療関係者の見学が増えています。しかしながら、今回のAeroDRの導入は当院が抱える課題解消の一端であり、電子化による働きやすい環境づくりをこれからも進めていきます。そして地域住民の皆様に対する医療サービスの充実と高度医療と人材育成の使命を果たしていきます。



AeroDR

#### ■東京女子医科大学東医療センターの概要

開設	昭和9年
所在地	東京都荒川区西尾久2-1-10
病床数	495床
外来患者数	約1,300人/1日
職員数	約1,200人

取材にご協力いただき、ありがとうございました。  
コニカミノルタはこれからもお客様の声を大切に、  
医療分野の革新に貢献してまいります。



## 大型病院からクリニックまで 幅広い医療現場で活躍するAeroDR

X線フィルムのパイオニアであるコニカミノルタは現在、医療のデジタル化、ネットワーク化を支える機器やシステム、ITサービスをトータルに提供しています。

X線画像診断の領域では、世界最軽量※をはじめとする数々の優れた特徴を持つ無線カセット型DR AeroDRを2011年3月から販売。

大型病院からクリニックまで、幅広い医療現場で、医療に携わる方々や患者様の負担を大きく軽減しています。 ※2013年8月時点

### AeroDRの特徴

- 1. 効率性** 画像のデジタル化により、データの保存・管理の効率向上など医療診断の現場に革新をもたらします。
- 2. 軽量性** 世界最軽量の実現により、取り扱い性が向上するとともに、撮影時の患者様の負担軽減につながります。
- 3. 堅牢性** パネル外装に強靱な炭素繊維を採用することで、荷重や衝撃に強い筐体を実現しました。
- 4. 持続性** 新型バッテリーの搭載により、環境に優しい長時間の使用が可能になりました。
- 5. 安全性** 従来型の製品に比べ、約半分のX線照射量で診断画像の撮影が可能になり、患者様の被曝低減を実現しました。



デジタルラジオグラフィー AeroDR SYSTEM  
(薬事認証番号 225ABBZX00011000)

※DR(デジタルラジオグラフィー): 照射されたX線をセンサーパネルで受光し、ダイレクトにデジタル画像を得るため、一般的にCR(コンピュータドリラジオグラフィー)よりも画質が良く、また即時性に優れる。



AeroDRは、画像データの送信を無線で行えるワイヤレスタイプとして、院内での持ち運びが可能です。その際、「世界最軽量」の軽さが検査技師の皆様に喜ばれています。



操作の妨げとなるケーブルなどが無いため、様々な環境でハンドリングの作業性を向上させています。これが、患者様、職員の方々の負担を軽減しています。



撮影後、1秒台ですぐに画像を見ることができ、撮影が適正だったかの確認が可能です。これが、患者様に対する迅速な診断につながります。

## 成長が予想されるヘルスケア分野での ジャンルトップ戦略

コニカミノルタはヘルスケア事業を新たな成長事業と位置づけ、同分野でもジャンルトップ戦略による持続的な成長を目指しています。既に国内で競争優位性があり販売数が伸長しているカセット型DRはGEヘルスケアなど有力なパートナーと提携し、海外での販売拡大を図り、着実に成果を挙げています。更に医療機関向けITサービス、超音波画像診断装置の商材を加え、医療現場の革新に貢献しながら、成長に向けた取組みを進めてまいります。

### ヘルスケア事業

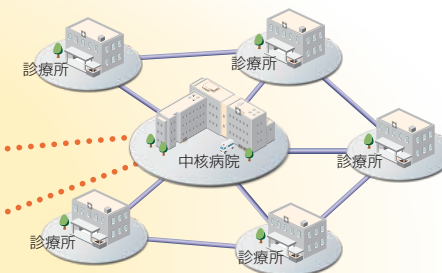
#### X線画像診断システム

当社ヘルスケア事業の主力分野として、「AeroDR」をはじめとするX線画像診断製品等を開発・販売。グループコア技術を最大限に発揮し、ジャンルトップを目指しています。

#### Products



#### Network Solutions informity



#### 医療ITサービス

医療現場でのデジタル化が進む中、当社が得意とする画像処理技術を活かした、院内の画像診断システムや、病院間のネットワークサービスを提供。医療現場のデジタル化の波を捉えていきます。

#### 超音波画像装置

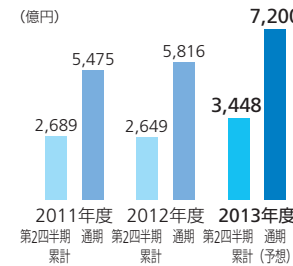
受診者の負担が少なく、リアルタイムに画像を観察できるため、幅広い臨床領域で使用されています。今後市場として伸びが期待されますが、この領域でも勝てる公算のある特定のジャンルを狙っていきます。

# 事業別概況

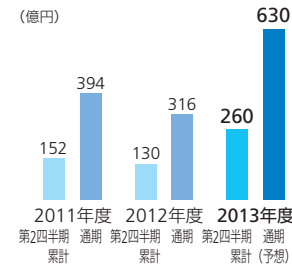
## ●情報機器事業



■売上高 3,448億円  
前年同期比 30.1%増



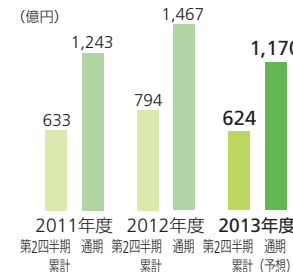
■営業利益 260億円  
前年同期比 99.7%増



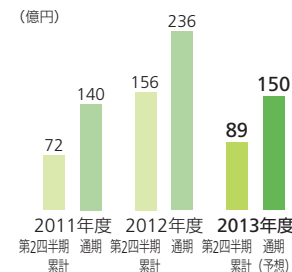
## ●産業用材料・機器事業



■売上高 624億円  
前年同期比 21.3%減



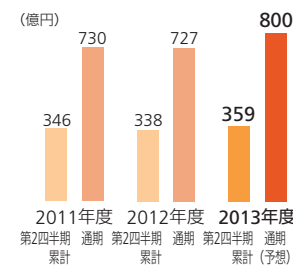
■営業利益 89億円  
前年同期比 42.5%減



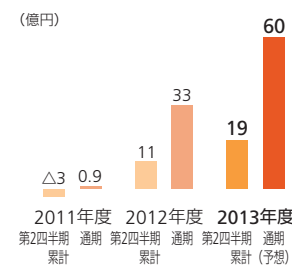
## ●ヘルスケア事業



■売上高 359億円  
前年同期比 6.2%増



■営業利益 19億円  
前年同期比 64.5%増



## 決算のポイント

カラー製品の販売増やコストダウンの順調な進捗により増収増益を達成

- オフィス分野の主力製品であるA3カラーMFPが全地域で大きく伸張
- プロダクションプリント分野でもカラー機の販売が堅調に推移
- 業容転換に向けたIT・サービス・ソリューション売上はM&A効果もあり大きく成長
- 製造部門における電子部品の集中購買などによりコストダウン計画が順調に進捗

## トピックス

ライトプロダクションプリント分野向けデジタル印刷システムの集大成  
「bizhub PRESS C1070/ C1070P/ C1060」

この度、多くの印刷生産現場から寄せられるご要望事項に応える形で、「bizhub PRESS C1070シリーズ」を2014年2月より発売いたします。このシリーズは、当社グループの製品づくりの新コンセプト「Harmonics (ハーモニクス)」に基づき、安定性、用紙対応力、高画質など、高いレベルのパフォーマンスを誇ります。



計測機器は堅調に推移するも他の主要製品は前年比販売減。但し、概ね計画線で推移

- TACフィルムはノートPC市況の悪化及びTV用部材多様化の影響を受け販売減となるも、薄膜フィルムのシェア拡大もあり、想定内の進捗
- レンズ関連製品は、総じて計画通り推移。HDD用ガラス基板は受注が回復せず、厳しい状況が継続
- 計測機器はM&Aが奏功し順調な進捗

大手照明関連測定器メーカー  
Instrument Systems GmbHを加え  
光測定機のラインアップを強化

近年、急激な普及とともに増加するLED照明の計測ニーズに応えるため、LEDを含む照明業界において、その技術力、営業力に強みを持つ同分野のトップ企業インストルメントシステムズ社をグループに加え、光測定機のラインアップを強化しました。



DR製品の販売好調により増収増益

- カセット型DR「AeroDR (エアロディーアール)」の販売が好調を維持し、日米欧の主要地域で販売増
- 卓上型CR (コンピューテッドラジオグラフィ) 「REGIUS Σ (レジウス シグマ)」も、海外を中心に販売増
- フィルム製品は、委託生産に切り替えたことにより収益性も改善し、新興国を中心に販売増

在宅医療に最適な携帯型超音波画像診断装置  
「SONIMAGE (ソニマージュ) P3」新発売

この度、主力のX線画像診断分野、医療IT (情報技術) 分野に次ぐ、第3の分野として超音波分野を位置付け、新製品を2013年9月1日より日米同時に投入いたしました。今回発売した携帯型超音波画像診断装置「SONIMAGE P3」は重さがわずか392g、ディスプレイユニットの大きさも11.5×6.8cmと超軽量・コンパクトな仕様となっており、検査室以外に、在宅医療や災害現場などでの使用が可能です。





# 会社概要 (2013年9月30日現在)

商号	コニカミノルタ株式会社
証券コード	4902(東証第一部)
創業	1873年(明治6年)
株式会社の設立	1936年(昭和11年)
資本金	37,519百万円
従業員数	41,851名(連結) 2013年9月30日時点
本社	〒100-7015 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー
関西支社	〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス

## 役員(取締役)

太田 義勝(取締役会議長)	松本 泰男
松崎 正年	木谷 彰男
伊藤 伸彦	山名 昌衛
近藤 詔治	杉山 高司
吉川 廣和	安藤 吉昭
榎本 隆	

(注1)  
取締役 伊藤伸彦、近藤詔治、吉川廣和、榎本隆の4氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であり、株式会社東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員です。

(注2)  
取締役 松崎正年、山名昌衛、杉山高司、安藤吉昭の4氏は、執行役を兼務しています。

## 役員(執行役)

代表執行役社長	松崎 正年
専務執行役	杉山 高司 山名 昌衛
常務執行役	松丸 隆 安藤 吉昭 亀井 勝 児玉 篤 家氏 信康 唐崎 敏彦 白木 善紹 原口 淳

執行役	秋山 正巳 鈴木 博幸 秦 和義 中村 富夫 大野 彰得 伊藤 豊次 若島 司 大須賀 健 浅井 真吾 真田 憲一 腰塚 国博 畑野 誠司 塩見 憲
-----	--

# 株式の状況 (2013年9月30日現在)

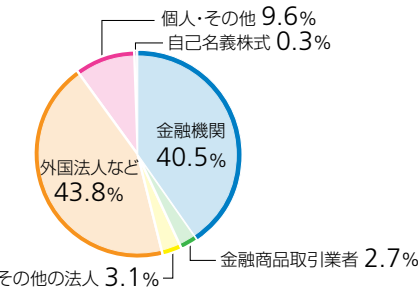
発行可能株式総数	1,200,000,000株
発行済株式の総数	531,664,337株
株主数	27,849名

## 大株主(上位5名)

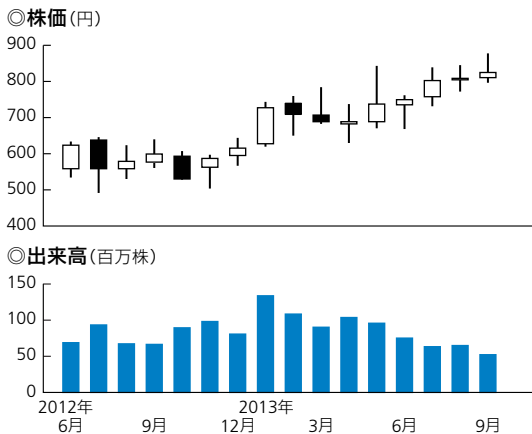
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)*
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,433	6.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	30,768	5.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,945	2.6
ジェービー モルガン チェース バンク 385167	11,948	2.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	11,875	2.2

\*持株比率は自己株式(1,337,508株)を控除して計算しています。

## 所有者別株式分布状況



## 株価と出来高推移(東京証券取引所)



# IRインフォメーション

## ●個人投資家向け会社説明会を実施

この9月28日(土)に、大和インベスター・リレーションズ主催の個人投資家向け会社説明会に参加し、当社社長の松崎より、「ジャンルトップ戦略で持続的な成長を目指す」をテーマに当社の状況や今後の方針などをご説明いたしました。会場には400名以上の個人投資家の皆様にご出席され、大変熱心に聞かれる中、説明会後の質疑応答におきましても、「成長戦略」や「株主還元政策」など投資のポイントを捉えた質問をいただきました。また、同会場の通路に当社ブースを設置しておりましたが、こちらも大変多くの方で賑わっていました。当社グループでは、今後ともこのようなイベントにも積極的に参加し個人投資家の皆様と直接お話できる機会を持ってまいります。



当日、会場でのプレゼンテーション風景

### ■開催要項

日時	平成25年9月28日(土曜日) 午前11:25 ~ 12:20
場所	大和コンファレンスホール 東京都千代田区丸の内1-9-1 グラントウキョウ ノースタワー18階
資料	『コニカミノルタ個人投資家向け』説明会で検索 <a href="http://www.konicaminolta.jp/about/investors/event/individual_event/index.html">http://www.konicaminolta.jp/about/investors/event/individual_event/index.html</a>

## ●「Dow Jones Sustainability World Index」構成銘柄に2年連続で採用 ～経済側面の取り組みがセクター内で最高の評価～

当社はこの度、世界的に権威のある社会的責任投資(SRI)指標の一つ「Dow Jones Sustainability World Index」(DJSI World)の構成銘柄に2年連続で採用されました。

DJSI Worldは米国のS&P Dow Jones Indices社と企業の持続可能性評価を行うスイスのRobecoSAM社が提示する株式指標で、経済・環境・社会の3つの側面から企業の持続可能性を評価するものです。今回、世界の大手企業2,500社を対象とする評価において、

DJSI Worldには333社が採用され、日本企業は当社を含む21社が組み込まれました。

今回、当社については、イノベーションマネジメント及び危機管理などの経済側面における取り組みが「コンピューター・周辺・オフィス機器セクター」の中で最も高い評価を得ました。また、環境方針・マネジメントなどの環境関連の取り組みも高く評価されています。



## ●株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当基準日	3月31日若しくは9月30日またはその他決定された基準日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711(平日9:00～17:00) ※通話料無料

公告方法  
電子公告 (<http://konicaminolta.jp>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合、東京都において発行する日本経済新聞に掲載。



# お知らせ

## ニューイヤー駅伝2014連覇にむけて

毎年元旦に行われる駅伝最高峰のニューイヤー駅伝において、過去7回の優勝を誇るコニカミノルタ陸上競技部。2013年の優勝に続き、連覇を目指して部員全員がトレーニングに励んでいます。皆様におかれましても、温かいご声援のほどよろしくお願い申し上げます(先日の11月3日開催の東日本実業団対抗駅伝において、優勝を果たしました)。



### ニューイヤー駅伝2014

コニカミノルタ ニューイヤー駅伝特設サイト  
<http://www.konicaminolta.jp/athlete/newyear/index.html>

## キンコーズの年賀状印刷特別優待のお知らせ

2012年6月にコニカミノルタグループの一員になりましたキンコーズ・ジャパンから株主様限定優待のオンラインクーポンをご案内いたします。



クーポンコード  
「KMIR2013」で  
フルカラー年賀の  
基本料金と印刷代が

最大  
**28% OFF**  
12月16日までの  
ご注文で

100枚の場合  
6,180円 → **4,449円**

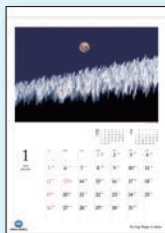
しかも、最短24時間のオンデマンド仕上げ!

年賀状印刷オンラインクーポンご利用の流れ

**STEP1** <https://www.kinkosonline.jp/>にて会員登録  
**STEP2** お好きな年賀状を選び名入れ部分を入力  
**STEP3** クーポンコード欄に「KMIR2013」を入力

※はがき代は含んでおりません。

## 当社製カレンダーの進呈




国内の個人株主の皆様※に  
当社製カレンダーを12月に  
進呈します。

※毎年9月30日時点で500株以上  
お持ちの皆様が対象です。

単元(500株)未満株式の買い取り・  
買い増し制度をご活用ください。

手続き用紙請求先(24時間対応):

 0120-244-479

※通話料無料(三菱UFJ信託銀行 証券代行部)

インターネットアドレス:

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

●証券会社にお取引口座をお持ちの株主様は、証券会社にご相談ください。



### コニカミノルタ株式会社

〒100-7015  
東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー  
法務総務部 TEL: 03-6250-2000  
<http://konicaminolta.jp/>

この株主通信に記載されている当社の現在の計画・戦略および将来の業績見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。

実際の業績は様々な要素によりこの株主通信の内容とは異なる可能性のあることをご承知おきください。

(2013年11月発行)



地球環境にやさしいFSC認証紙とVOC(揮発性有機化合物)を含まない植物油インキを使用しています。